

なぜ片付けないのか？

～片付けを通して見えてくるもの～

あけぼの幼稚園：石堂、森本、土崎、大岩、芹川

○保育の概要

保育目標：すべての生活から健全な心身を育てる

すべての生活からよく考える力を育てる

すべての生活から愛情と自立心を育てる

モットー：よくみる、よく聞く、よくする

○テーマに至るまでの経緯と内容について

自園は自由度が高く、遊びに関する各クラスの保育室という枠組みを超えて、子ども達が遊びたい場所で遊びを選択できるように環境を構成しています。その為、園内には、好きな時間に誰もが遊べる共有スペースが多く存在します。しかし、そのような共有スペースにおいては、共通して“片付けられていない”という現状があり、その中でも『園庭の片付け』が最も課題となる場所として挙がっていました。

毎年年度初めは、片付けよりも子ども達がクラスでの生活に慣れるという事を大切にしてきた為、保育者は片付ける事への呼び掛けよりもクラスに戻るきっかけ作りを重視して関わってきました。そのような考え方もあり、園庭が片付けられていないという現状も“仕方がない”と考えていましたが、例年変わらぬこの現状に「本当にこれでいいのだろうか」という疑問が保育者間であがりました。それがきっかけとなりこのような検証を行ってみました。

＜検証に至るまでの園庭の様子＞



実際の片付けない子どもの姿を見てみるために…

予備調査

まずは保育者の言葉掛けを統一してみた。

●『お片付けの時間だよ』という声掛けだけで、子どもはどう行動するのか!?

(保育者は手伝わずに声をかけるのみ)

→ 子どもの姿

- ・ 全体的に片付いていない印象
 - ・ 年少児にはほとんど響かない
 - ・ 一部の年長児は担任の声掛けにより積極的に園庭の片付けをする
 - ・ 声を掛けられた時点で使っていた物は片付けている
- ↓ このような姿が見られた所で、以下のことを検証してみました。

検証

(検証期間：2012年5月末～7月)

① 具体的な言葉掛けにしよう！

『使った物は元に戻そうね』という、声掛けに変えてみる。

→ 子どもの姿

- ・ 具体的な言葉に反応していた子もいたが、全体的には「お片付けの時間だよ」という声掛けの時とあまり変わらない印象。

では…片付けていない玩具を大人も片付けずにそのままにしておくと…

→ 子どもの姿

- ・ 気にせずに片付けていない玩具を拾って遊び続ける姿が見られた。

② 子どもの気持ちを盛り上げよう！

遊び感覚 + 大げさに褒める

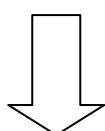
例／「いくつ片付けられるかな？」

「こんなに重たいの、片付けられる？」

「年少さんに見本を見せてあげよう！」

→ 子どもの姿

- ・ 年少・年中児には大ヒット！
- ・ 意欲は見られるが、玩具を直す場所がぐちゃぐちゃだった。
- ・ 一部の子には遊びの延長として、片付けがブームとなり、“片付けの時間”を待ち望む姿が見られる。
- ・ 年長児にはあまり、ヒットせず…



② の姿より見えてきた子ども達の育ち

年少児・・・遊びの延長で楽しめ、なおかつ大好きな先生に褒めてもらい、認めてもらうことで、『片付け』が楽しくなっている様子。また、遊びの途中でも、この声掛けや、それに対して行動する年中児の姿を見て、片付けに切り替えている子が多かった。

保育者とのつながりが強い **周りに目を向け、模倣しようとする** など

年中児・・・年少同様、遊びの延長として取り組んでいたが、友達と数を比較したり、「多く片付けることがすごい」「勝ちたい」という思いが強く感じられた。保育者に「俺、30個片付けた！！」等、伝えにくる事から、褒めてもらいたい事が強い。「すごい」という事が数の多さに結びついている様だった。(※本来5個しか片付けていなくても、「100個片付けた」とアピールする等)

自分と他児とを比較できる **競争心が芽生えている** など

年長児・・・この声掛けで行動する子よりも、周りの子(年少・年中児)が楽しんでいようが、保育者が大きさに声を掛けようが、その時々に反応するのではなく、自分の遊びが終われば自分のものを片付けていた。

見通しが持てている **自分で考えて行動できる**

検証②のような関わりで、意欲が高まるのは、年少児・年中児に多く、年長児には『最高学年として』『見本をみせてあげよう』『年長だからこそ』につながる声掛けをする事で意欲の高まりが見られた

②が子ども達にヒットしたため、いつまで持続するのか引き続き検証。

+

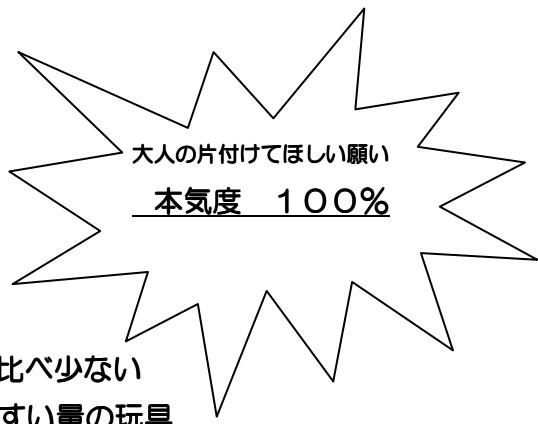
片付けている子どもの姿や、片づいた園庭の状態を「綺麗になって気持ちがいいね」、「次に遊ぶお友達が使いやすいね」等の言葉で子どもたちに伝えるようにした。

しかし…、再び予備調査の時のような子どもの達の姿に戻る。

→ 行事前で、保育者が園庭に出にくくなった等…が理由？

片付いていた時・・・

- ・保育者が子どもに寄り添って声を掛けていた。
- ・保育者が片付けを見守ることが出来ていた。
- ・朝の片付けの時間帯（9：55～）
 - 大人が園庭に出て片付けを促しやすい時間帯。
 - 一つの遊びで終わるぐらいの時間なのかも。
 - 年長児の朝の当番活動の取り組みへの意識。
 - 玩具の数と遊んでいる子どもの数が他の時間に比べ少ない
→ 片付けやすい量の玩具

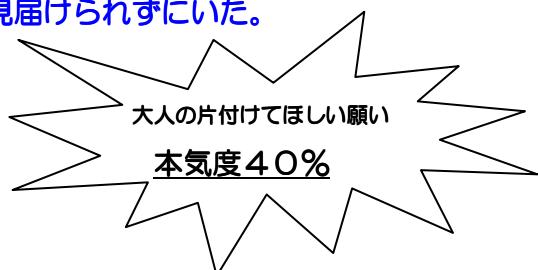


子どもの意欲が高まった時（楽しみながらの片付け）

- ・認められて自信につながった。

片付いていない時・・・

- ・園庭に出ている大人の数が少なく、最後まで片付けを見届けられずにいた。
 - 子どもへ響かない。
- ・昼食前の片付け（11：00～）
と、帰り前の時間帯（13：00～）
- ・遊びが一ヵ所で留まっていない。



題名『なぜ、片付けないのか？』に見れるように、私達は『なぜ、子ども達は片付けないのか』という考え方をしていた。以前は、保育者が片付けながら子ども達に「お片付けの時間だよ～」と、声を掛けたがその言葉だけが流れていて、子どもの心に届かず、結局は保育者が一生懸命片付けていたので、『果たしてこれで子ども達の片付けが身に付くのか？』という疑問がでてきた。検証では、『子どもだけで片付けるならばそれが良い』と考えていたので、保育者は声掛けのみを行い、片付けていない。

この検証をする中で、言葉掛けだけで子どもを動かそうとすると、より、子どもに寄り添い心に響かせなければいけないと気付いた。しかし、一方で、全ての検証を終えた後に『「大人が手伝わずに片付けられるならばそれがよい」という考えが、この1学期に合っているのか？』という新たな気づきも出てきて、改めて考えるきっかけとなった。

子ども達の姿を見ていると、まだ子ども達には共有スペースの『片付けの必要性』を感じることが難しいかもしれないと感じる。しかし、私達は園庭だけに限らず、共有スペースでは皆が玩具を使う権利があるので、次の使う人のことを考えられるようになって欲しいという願いを持っている。次に使う時の使い易さ、物を大切にする気持ち、きれいに片付けた後の気持ち良さなどの「片付けることへの価値」を、子ども達へのメッセージとして大人がしっかりと伝えていく事が大切だと思う。その為には、大人も共に片付けながら、そのメッセージを伝えていく必要性があるのではないか。今は物の片付け方や、意義を知らせていくことを思っている。また、『きれいに片付ける』ことのみを重視するのではなく、片付けるという行為は、こどもたちの何を育てるのかを考えながら、今後も子ども達との片付けに向き合っていくことを思っている。

それぞれの学年に合わせた関わりと大人の本気度と片付けやすい環境など、それぞれの要素が合わさって、「片付けよう」という子どもの意欲につながるのではないだろうか。この気づきを頭に入れながら、今後は環境設定の見直しなどに目を向けていきたい。

片付けようとしていない！

保育者が声をかけたり、一緒に
片付けてはいるものの…

片付けにくい環境なのかも…

声のかけ方が伝わってないのかな…

片付けが楽しくない!?



でも、今はまだ新年度がはじまりクラスでの生活や人間関係…
あつた。

しかし、例年のこの時期のこの
有スペースの片付けに向き合つ



そこで…予備調査として実際の片付けない子どもの姿を見てみるために、まずは、保育者

「お片づけの時間だよ」という声掛けだけで、子どもはどう行動するのか



<子どもの姿>

- ・全般的に片付いていない印象。・年少
- ・一部の年長児は担任の声掛けにより積極
- ・声を掛けられた時点で使っていなかった物は片付

このような姿が見られた所で、以下のことを検証

①具体的な言葉掛けにしよう！！

「使った物は元に戻そうね」という声掛けに変えてみる



<子どもの姿>

- ・具体的な言葉に反
- 片づけの時間だよ
- い印象。

では、片付けていない玩具を大人も片付けずにそのままにしておくと…



<子どもの姿>

- ・気にせずに片付けていない玩具を拾って遊び続ける姿



②子どもの気持ちを盛り上げよう！！

遊び感覚 + 大げさに褒める

例／「いくつ片付けられるかな？」

「こんなに重たいの、片付けられる？」

「年少さんに見本を見せてあげよう！」



<子どもの姿>

- ・年少、中には大ヒット！
- ・意欲は見られるが、おもち
- ・一部の子には遊びの延長と
- 待ち望む姿が見られる
- ・年長にはあまり、ヒットせ



②の姿より見えてきた子

か子こも達にヒットしたため、いつまで持続するのか引き続き検証。+(ノフス) 片付けている子ども達の姿に戻る。

- 行事前で、保育者が園庭に出にくくなつた等・・・が理由?



青文字: 大人の姿
赤文字: 子どもの姿

片付いていた時…

- 保育者が子どもに寄り添って声を掛けていた。
- 保育者が片付けを見守ることができていた。
- 朝の時間帯の片付け (9:55~)
 - 大人が園庭に出て片付けを促しやすい時間帯。
 - 一つの遊びで終わられるぐらいの時間なのかも。
 - 年長児の朝の当番活動の取り組みへの意識。
 - おもちゃの数と遊んでいる子どもの数が他の時間に比べ少ない→
- 子どもの意欲が高まった時 (楽しみながらの片付け)
- 認められて自信に繋がった。



片付いていない時…

- 園庭に出来ている大人の数が少く、最後まで片付けを見届けられずにいた。
→子どもへ響かない。
- 昼食前の片付け (11:00~) と、帰り前の時間帯 (13:00~)
→遊びが一力所で留まつてない。

題名『なぜ、片付けないのか?』に見られるように、私達は『なぜ、子ども達は片付けないのか?』と、それが片付けながら子ども達に「お片付けの時間だよ~」と、声を掛けたがその言葉だけが流れていった。私が一生懸命片付けていたので、『果たしてこれで子ども達の片付けが身に付くのか?』という疑問が湧いてしまった。そこで「片付けをするならそれが良い」と考えて保育者は声掛けのみを行い、片付けていない。

この検証をする中で、言葉かけだけで子どもを動かそうとすると、より、子どもに寄り添い心に響かせる一方で、全ての検証を終えた後に、「大人が手伝わずに片付けられるならばそれがよい」という考え方という新たな気付きも出てきて、改めて考えるきっかけとなった。

子ども達の姿を見ていると、まだ子ども達には共有スペースの『片付けの必要性』を感じることが難しかった。私達は園庭だけに限らず、共有スペースでは皆が玩具を使う権利があるので、次の使う人のことも考慮している。次に使う時の使い易さ、物を大切にする気持ち、きれいに片付けた後の気持ちよさなども達へのメッセージとして大人がしっかり伝えていく事が大切だと思う。その為には、大人も共に片付けの必要性があるのではないか。今は物の片付け方や、意義を知らせていくたいと思う。

それぞれの学年の育ちに合わせた関わりと大人の本気度と片付けやすい環境など、それぞれの要素が子どもの意欲につながるのではないか。この気付きを頭にいれながら、今後は環境設定の見直しなどは